

会員の広場



オペレーティング・ウィンドウト 向き合おう

野村 徹（東京）

30代初めにイラン・イラク戦争の最中、テヘランに3回、石油関係の仕事で出かけました。国営石油会社が用意してくれたホテルでの出来事が印象的です。レストランで食事をして終わった頃、ウェーター曰く「あなたは東から来た友人です。この国では西から来た

者は悪人です」。この言葉は、何を意味しているのだろうか、今になってわかるのは、日本は中東では資源搾取をしていない国であることだと思っています。ちょうどロビーのテレビが「おしん」を放送していました。クウェートは、イラクの侵攻前に行き、仕事が終わった後、製油所長兼皇太子主催のディナーに主賓で出席したことなど楽しい思い出です。帰国して1週間後に御巢鷹山の事故が起こりました。ヨルダンでは、なぜ米国が最初に出かけるアラブ国家なのかを知り、国際政治の駆け引きや、中東経済をレバノン大学に中東各国から留学してきた卒業生が動かしていることなども知ることができたと思います。

現在かかわっている分野の先端の考え方と

してオペレーティング・ウィンドウト（化学プラントを運転するときの温度・圧力・環境の

ないでしょう。

厳しさなどの許容範囲をリスクの大ききで分けたもの）があります。これなどは、防衛問題や外交交渉で用いられている考え方に類似するものであると理解できました。簡単には、最も外側の窓をはみ出て運転するとすぐに装置が壊れます。その内側の少し狭い窓を超えると直ちに壊れませんが、いずれ壊れる範囲があります。さらに狭い範囲の窓の範囲で運転している限り、経年的な劣化や損傷の対応をすれば、ずっと使える許容範囲を示しています。身近なところでは、茶碗蒸しの卵と出汁の組み合わせのようなもので、卵が多すぎると、硬く舌触りが悪くなり売り物にはなら

ここ数年、出身大学の大学院でリスク評価に関する双方向の講義を行っています。最初の講義で学生自身に身の回りのリスクを書かせるところから始めています。啞然とする内容であっても最終回の課題でまとめてくる内容は理解も進んで高度な議論ができるよう成長しています。留学生在が10名ほどいますが、社会に出る積極的な姿勢と対照的な日本人学生の内向き姿勢が気になります。しかし少数の学生は前向きな志向をしていますので捨てたものではないようです。

経済倶楽部から、いっぱい吸収させていただき、柔らかな頭を維持できる間は、教え続けようと思っています。